

2009年(平成21年)3月31日 火曜日

32

新素材の微細加工に力

日本精密電子が営業部門強化

医療・車・航空関連を開拓

【横浜】日本精密電子(横浜市東区、一住連 努社長、045・805・3371)は、切削が難しい新素材の微細加工技術で医療機器や次世代型自動車、航空機関連市場の開拓を本格化する。カーボン複合素材など同社が強みとする加工の高精度化と営業増員で需要を取り込む。需要が低迷する半導体製造装置用部品の売り上げ依存から脱却。同部品以外の売り上げ構成比を現在の3割から5割以上とし、部品の品質管理や検査事業なども始める。2010年3月期は前期見込み比2割増の売上高21億円を目指す。

4月以降は1億円を投入するほか、営業人員をじ大型5軸加工機や、10 増員。営業力と品質管理台目の3次元測定器を導 体制を強化する。

日本精密電子は08年秋以降に大型5面加工機や微細加工機、非接触の3次元画像測定器などの導入に2億5000万円を投資。主力である神奈川

県の藤沢工場から、08年12月に約500平方メートル増築した熊本工場への設備移転が4月末に終了するに先立ち、新素材でも1割増の切削精度と直

中堅・中小・ベンチャー

径10ミリの穴開けができた加工技術を確立した。営業人員も全体の従業員約15%にあたる10人を増員した。

需要が低迷した主力である半導体ウエハーの化学機械研磨(CMP)装置用部品などの売り上げ構成比が9割から6割と

落ち込んだ。そのため、太陽電池用のディスプレイや医療機器、燃料電池や次世代型自動車の部品などで新規顧客を25社開拓し、全体の収益の落ち込みをカバーした。中期的には、2012年3月期に売上高30億円を目指す。

◀ トップページへ戻る